

## 「羞恥心を喜びに」 ～喜びのキャンプがありますか？～

マタイ9：16、17

神様が私たちをつくった最大の理由は何だと思えますか。神様は愛している私たちの喜び姿を見たかったのです。私たちはこのことをわかっていません。だから私たちは潜在的に人が喜び姿をみて喜びようになっています。子どもは良いことと悪いことを、親が喜んでいけばよいこと、悲しんでいけば悪いことというように、親の顔を見て判断しています。そして多くは、悪い顔をしたら嫌な顔のまま終わってしまっているのです。そうすると、「嫌いだから言うんだ」と思うようになるのです。帰るところがないのです。だから指摘されることは嫌なことです。嫌なところを指摘すると怒り、相手が自分のことを嫌いなんだと思うのです。でも本当は、「指摘する」ということは愛されているということなのです。私たちは見方を変えなくてははいけません。私たちは現実と非現実の中で生きていて、だまされていることが多いのです。本当はこういう意味だけど、そうでない理由でうかがってしまうのです。人の言葉や、目線などもこんな風になっていないでしょうか。私たちは傷ついてくると、指摘されると嫌われないために言い訳をし、それでは聞いてもらえずうそをつくようになります。結果、関係が悪くなってしまいます。（マタイ9：16、17）教会には新しいぶどう酒、布きれがあります。だけど私たちが古いままだから指摘されたり神様の言葉を聞いたりするといやなのです。新しい恵みなので、新しい価値観で受け入れなくてははいけません。それが「羞恥心」です。「キャンプ」は「帰ってくる場所」です。怒られっぱなしはキャンプがないのです。帰っていないとハゲワシに狙われ続けているのです。その価値観で全ての人を見るからみんな「ハゲワシ」なのです。ハゲワシとは自分の獲物を狙うライバルです。ライバルは、本来向上し合うものですが、蹴落とす相手になってしまっています。だから羞恥心は比較なのです。いつも「あいつ」がいるのです。喜びのキャンプに帰ることが羞恥心をとる方法です。神様が伝える指摘は、あなたが喜びのためです。ダメだからではありません。だけど、ダメだからと思うから周りの人からの言葉もどんな言葉もそういう理解で聞けないのです。私たちの見方は「こう」と決めたら「こう」としか見えないのです。（ヘブ12：2～8）「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでください。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。」（2）イエス様は羞恥心に喜びを信じて勝利したのです。喜びを見出すのはすごいのです。感情は神様の前に導くすばらしいものです。私たちは騙されたら、恥ずかしい思いをしたら、喜ばないのです。神様があなたを外に出したら、帰ったときには必ずキャンプがあると信じましょう。羞恥心から出ないと新しい皮袋の恵みはあずかれません。だから教会が戒めあうところから裁くところになってしまうのです。羞恥心の狭間で私たちは古い物に新しい物をなんとか詰め込もうとしますが、無駄です。だから私たちは ①あやまったアイデンティティから開放。（エレ2：12、13）これが偶像礼拝です。私たちの偶像は神様をすてて私たちが見ているものです。虚栄、人よりよく見せたい、幸せになって見てもらいたい・・・これが偶像です。私たちは泉（神様）を持っているから富も名声も自然とついてくるのに、泉を求めないからそれも失うのです。偶像は私たちのまわりではなく只中にあるのです。それを認めましょう。まずは頭で理解するだけでいいのです。認めて変わろうとすることを願いましょう。（ロマ1：20～25）偶像は形になる前にあるのです。「羞恥心」とは「執着心」です。あなたは何に執着しているのでしょうか。テレビ、お金、電話、名誉、立場、人がどう自分を理解しているかなどなど・・・執着して得ようとしても得られなくて怒っているものは何でしょうか。この執着しているものが羞恥心を縛っています。これを捨てなくてははいけません。これを持ったままでは喜べないし、これを得ても満足できません。私たちが満足をえられるものは一つ、「人々が私たちを見て笑っていること、そしてそれを人々が共有してくれること」です。自分の立場を保持しようとしても失うだけです。物では無理です。物は結果得られるものです。②神様からもらったゆるす権威。あなたには「赦される資格」がありますが、それと同時に「赦す権利」があります。「赦す」と言っていますか？あなたがほどいてあげないとその人はがんじ絡めです。よくなりません。赦すのはあなたの「義務」です。良い人のことは「よい」と裁き、悪い人は正しく裁かないといけません。自分がダメだから相手のダメなところを探してしまうのです。赦す気持ちで人を見ると、その人もあなたも変わり、どんどんよくなります。（Ⅱコリ5：15～19）イエス様が十字架に架かってくれたのでその人はその罪の責めを受けませんが、あなたが赦すことで悔い改めるのです。「ごめん」「いいよ（ゆるす）」「ありがとう」です。和解の言葉が大事です。③羞恥心から喜びへ。「イエスの御名によって、最後に喜びがあることを信じます。悲しみのままで終わらないことを信じます。人々の言葉は責める言葉でないことを信じます。嫌いだから言うのでないと信じます。人々の言葉は私を活かす言葉です。」こう祈りましょう。自分が嫌だと思う人が言う言葉でも、神様が何を言っているのか感じれば違います。ダビデは、サウルをすかしてイエス様を見ていました。だからサウルを殺さなかったのです。（ゼパ3：16、17）「あなたはなんで生まれたの」と聞かれたら「神様に喜んでる姿を見ていただくため」と答えましょう。これが目的です。結果、愛し、裁きあうのです。さばきあうとは、正しいことは正しい、まちがっていることはまちがっているということです。その権利をあなたが持っているのです。今日から、あやまり、ゆるしましょう。そうすれば喜びに変わりますよ。（要約者：岩崎祥誉）